図書館★NEWS

5月の特集
「 2018年本屋大賞を読みつくす！」

5月　開館スケジュール
通常開館　（平日）9:30～18:30,（土）9:30～14:30
5/10･･･14:30 閉館　　5/22-25･･･17:45 閉館

早稲田大阪学園
図書館発行　No.45
2018.5.1

☆5月の図書館イベント☆

①英語多読キャンペーン☆

【期間:5/1～6/30】

多読リーディングマラソン 4219語を読み切ろう！

フルマラソン42.195㎞⇒4219語でゴール♪
（10語＝1ｍ換算）
＊24頁×5冊程度でも達成可能（読書量 約40分）

易しいレベルからスタートしてみよう！

はじめるなら、今がチャンス！

☆完走者特典！☆
輸入菓子　(オランダ)
ファッシーニ　サワーパワーベルト
抽選で10名に進呈

「地下書庫ミステリーツアー」

普段は生徒だけの立ち入りが禁止の
図書館･地下書庫にお連れします。

5/9（水）
①昼休みの部，②放課後の部
随時スタート

＊クイズに挑戦！見学だけも OK

「二万冊収蔵のハンドル式書架」を操作したり、
「謎の銅像」「不思議なはしご階段」「図書館の怪談」
などの秘密が明らかに！
参加者は、図書館カウンターに集合！

雑誌付録･抽選会
雑誌バックナンバー･お持ち帰り会
古い英字新聞･お持ち帰り会

5/16(水)13時　スタート！

雑誌:アニメージュ, SCREEN,　日経エンタテインメント！
ROCKIN' ON JAPAN,　INROCK,　ナンバー　ほか

※このイベントは各学期に実施予定

図書館にあります！

本屋大賞受賞作＆
ノミネート作！

本屋大賞は、全国書店員が決める文学賞。本と顧客を一番よく知る書店員ならではのセレクト。一般読者の感覚に近く、読みやすさや娯楽性など親しみやすい作品が多いのが特徴。直木賞･芥川賞よりも売り上げ部数が伸びる賞として注目されています。

棋士が放つ　光と闇　人間の狂気にゾワッ！
「盤上の向日葵」 柚月裕子/中央公論新社　2位

将棋の駒を胸に抱いた死体が山中で発見された。世に七つしかない名人作の駒であることから、持ち主をたどり犯人に迫る。犯人とおぼしき天才棋士は最初から登場するのだが、どう結びつくのか、また、貧困にあえぐ少年と彼を陰で支えた老夫婦がどう物語にからむのか興味を駆り立てられ、500頁越えの長編もあっという間だった。将棋の戦法を知らない私でも大満足だったので大丈夫！

大泉洋　小説に初主演！　天性の編集人として☆
「騙し絵の牙」塩田武士/KADOKAWA　6位

絶妙な話術で部下も作家も心を虜にされる敏腕雑誌編集長が主人公の速水。自分達の雑誌の廃刊の噂を聞きつけ、あらゆる人脈から情報をたぐりよせ生き残りをかけた攻防を繰り広げる。膨大な取材によって本質を見極めているからこそ描ける出版業界のリアルや未来予想図は、圧巻の社会派小説に。実在の俳優を「あてがき」した小説は珍しい！速水の一挙一動は大泉洋に脳内で変換再生され、ドラマのような読書体験が新鮮だった。

このラスト、だれも予想できんでしょ
「崩れる脳を抱きしめて」
知念実希人/実業之日本社　8位

神奈川の病院に一か月の実習で来た研修医碓氷は、脳腫瘍の女性患者ユカリと出会う。死期の近い彼女の望みを叶えるために奔走するうちに恋が芽生えた。ありきたり？ホワホワした恋愛小説の前半と打って変わって、後半は息つかせぬ早業のミステリー展開に！病院を去った後に彼女の死を知り、なぜ死んだのか足跡をたどるうち、奇妙な謎に気付く。どんでん返しの名手の知念さんだけに、「えーっ、そういうことだったの！」と思いがけない結末で一本取られますよ☆（以上千葉）

鏡の中の世界、　7人はどうして集められたのか？
「かがみの孤城」辻村深月/ポプラ社　大賞

思いがけないきっかけで学校に行けなくなった「こころ」。ある日部屋の鏡が光り、鏡の中の世界へ引っ張り込まれる！そこにはこころと同じ中学生が６人いた。共通項は学校に行っていないということ。鏡の中のファンタジー物語要素だけではない。学校で社会で生きていくのがしんどい人達に、作者からのエールの物話なのだと思う。また、物語の構成が唸るほど上手いのだ。最後の頁、行まで愛おしい。

ゴッホの人生がこのお話のようだったら切なすぎる･･･。
「たゆたえども沈まず」原田マハ/幻冬舎　4位

19世紀後半パリで印象派画家や日本の浮世絵が注目され始めた頃、美術商、林忠正という日本人がいた。その頃、画家ゴッホの弟テオもパリで画商に勤めていた。ゴッホも弟を頼ってパリに来ていた。彼らの人生が重なり合ったという確固たる証拠は出てきていない。しかし作者は史実を調べつくし彼らのストーリーを書いた。当時の名も無き画家だったゴッホに、日本人が関わっていたとしたら！想像するだけでワクワクする！

読みながら、心がザワザワ･ぞわぞわ･ドキドキします。
「星の子」今村夏子/朝日新聞出版　7位

生後すぐから病弱だった娘･ちひろに、知人から薦められた特別な水を与え、奇跡的に治癒したことから両親は新興宗教にのめり込む。家庭事情が深刻になって行く様を、ちひろの目線で淡々と語られる。親の身勝手で子どもが巻き込まれる悲惨な家族の物語かと思いきや、そうでもない。両親は盲目的に娘を愛し慈しんでいただけ。信じる対象が新興宗教でも東大寺でも伊勢神宮でも大差はないのでは？ちひろのこれからの成長を予感させてくれるラストだ。（以上　田中）

家で肩身の狭いお父さんに是非読んで欲しい！
「AX(アックス)」伊坂幸太郎/KADOKAWA　5位

殺し屋シリーズの3作品目。(前2作を読んでなくても OK。)主人公は文具メーカーの営業マン、裏の顔は冷静な殺し屋「兜」、でもこの世で一番恐いのは妻(笑)。殺し屋の話なんて現実離れしていると侮るなかれ！話の展開の上手さにぐいぐい引き込まれます。殺し屋と日常の一見無関係にも見えるお話が徐々に絡まり合い、最後には父の家族を想う愛に泣かされます。

不思議の国のアリスの世界に迷い込んだかのよう！
「カラヴァル　深紅色の少女」
ステファニー･ガーバー著･西本 かおる訳/
キノブックス　翻訳小説部門　1位

１行目からカラヴァルのミステリアスな雰囲気の虜になった。念願かなって島での謎解きゲーム(カラヴァル)に参加できることになった主人公スカーレット。現実とファンタジーとの区別がつかない世界に迷い込んだ主人公の行方が気になって、ページを繰る手が止まらない…。続きが気になるラストと、なんでもカラヴァルの魔法で片付けるところには少し不満が残るものの、続編にも大いに期待したい。

平凡だけれど、確かな幸せを感じ取れる…
「キラキラ共和国」小川糸　/　幻冬舎　10位

昨年度の本屋大賞ノミネート作「ツバキ文具店」の続編。本作も鎌倉で代書屋を営む鳩子さんのもとに、さまざまな想いを抱えたお客様が手紙の代筆を依頼しにやってくる。盲目の少年からの母の日の手紙、亡き夫からの詫び状、夫婦喧嘩の代理･･･。時間がゆったりと流れる鎌倉での生活が丁寧に描かれていて、前作は鎌倉に行きたくなりましたが、今回は住んでいる気持ちになります。(以上　梅谷)

★英語多読を始める前に知ってほしいこと★

学校の授業が基本で重要なのは大前提！一方、多読では「英語で読書すること」を楽しもう。注意点は、背伸びしたレベルに挑戦しても意味がないということ。語数多く漫然と読むより、しっかり内容把できるものを読むほうが学習効果は高いです。図書館では入門的なガイダンスを随時行っています。

表紙画像は出版社の許可を得て転載しています。